

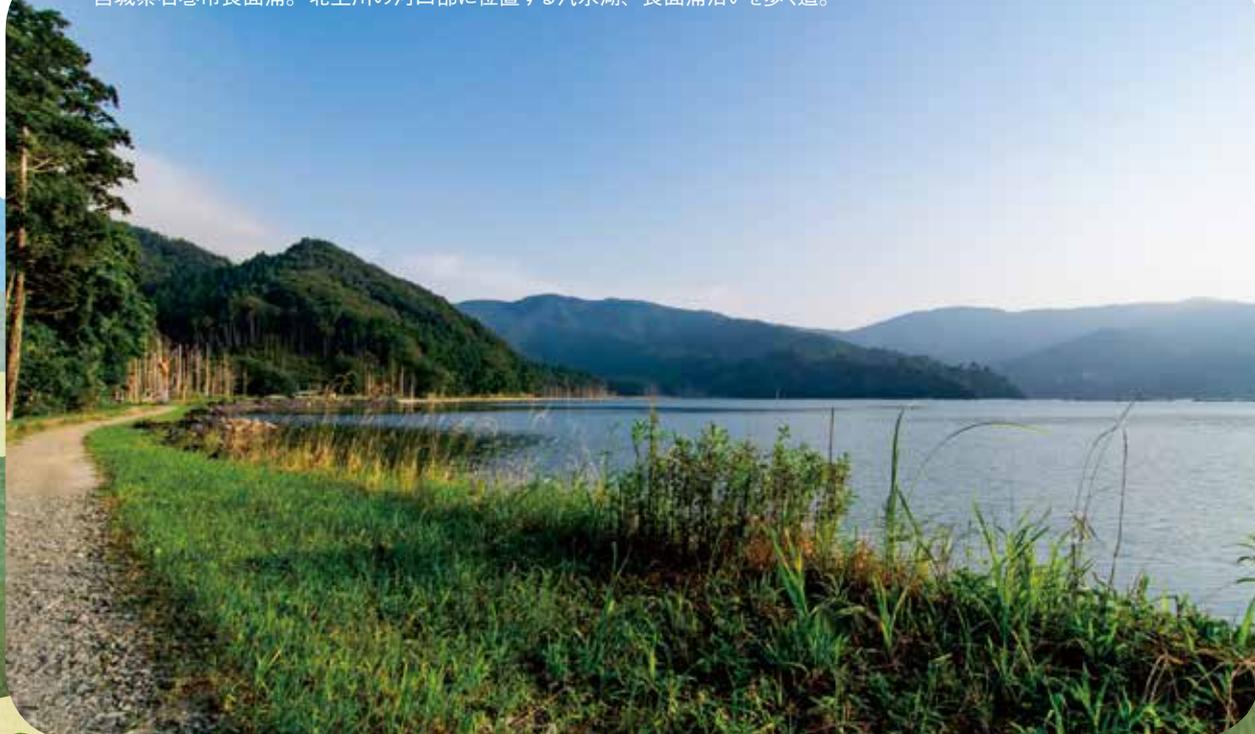
ここから これから

NPO法人 北海道 NPO サポートセンター
2019年10月号 [季刊発行]

Vol.
2

からから 便り

宮城県石巻市長面浦。北上川の河口部に位置する汽水湖、長面浦沿いを歩く道。



三陸復興国立公園のひとつ、宮城県気仙沼市岩井崎



みちのく潮風トレイルの拠点
名取トレイルセンター



岩井崎から沿岸をのぞむ

本州と北海道 北海道開拓の歴史から

本と読書でつながる輪
人と暮らしに寄り添う図書館

歩く道をつくる人
—みちのく潮風トレイル・北根室ランチウェイ—

寄稿 「1ページのたより」 本を読むこと

ここから これから からから相談
避難元に帰る、または通うことが求められた
時のために

避難元からの情報

北海道における被災避難者の受入状況

編集後記

北海道開拓の歴史から

東北の歴史観とは異なる姿を見せる北海道。歴史を知るからこそ感じる驚きや期待について寄稿いただきました。

相馬と伊達が共存するまちが北海道にあった

南相馬市博物館 二上文彦

タイトルを見て、ピンと来る方がどれほどいらっしゃるかわかりませんが、私が住む福島県相馬地方の人々にとって、「相馬と伊達が共存する」ことはなかなか衝撃的です。相馬と伊達といえば、地元では宿敵・ライバルという対立構造で語られることが多いのです。



二上さん

相馬と伊達が共存するまちは、伊達市のこと。私が伊達市を初めて訪れたきっかけは、平成24年(2012) 同市で当地方の伝統行事・相馬野馬追が描かれた屏風が発見されたことでした。これは江戸時代、伊達市の礎を築いた仙台藩一門の巨理伊達家が、隣国の相馬に家臣を派遣して、野馬追の絵を描かせていたものとわかりました。

■なぜライバル視されるのか

なぜ相馬・伊達が宿敵の代名詞なの

か。それは、今から400年以上前の戦国時代、相馬家と伊達家が50年以上も抗争を続けた末、相馬家が滅亡寸前まで追い詰められたというエピソードに由来しています。このことで「伊達は宿敵」という「対伊達史観」がのちに形成され、当地方では今もその史観が根強く残っているわけです。

■伊達市の相馬神社

そのような地域性を背景に持つ私が初めて伊達市を訪れたとき、街なかでふと目に見えたのが「相馬神社」という幟。なぜここに相馬!?と驚いて神社をのぞいてみると、同神社は南相馬市の太田神社から分霊されたとわかりました。太田神社は相馬野馬追に欠かせない、当地方ではおなじみの神社です。その相馬神社からほど近い場所に「伊達神社」があります。両社の例大祭はにぎわつお祭りとして知られ、ともに地域の人たちに親しまれていること。私たちがライバルだと思っ

ている相馬と伊達を冠した神社が、同じ町に「共存」しているとは！しかも、相馬神社のみならず、同じく野馬追に欠かせない小高神社もあるではないですか！この状況はとても衝撃的でした。

■「開拓」でつながった相馬と伊達

伊達市以外にも、北海道には「相馬」などを冠する、当地方の分霊社が多数あります。馬の祭礼・野馬追ゆかりの神社であることから、開拓に欠かすことができない労働力「馬」の守護神として厚く信仰されたそうです。

伊達神社は開拓に尽力した巨理伊達家の伊達邦成らを祀る神社、相馬神社は開拓に欠かせない馬の守護神。奇しくもライバル同士が同じ町にある理由は「開拓」がキーワードでした。苦難の道からはじまった伊達の街づくりの一部に、「馬」という相馬らしい面が心の支えの一つとして寄与していたとは。時代を超えた、相馬と伊達の新しいカタチが北海道にあったのだと、相馬の人間として大変感激したものです。



2018年に南相馬博物館で開催された「伊達成実 南相馬に来たる」展

■相馬と伊達の新たな交流

伊達市で見つかった野馬追屏風は、ありがたいことに平成26年(2014)南相馬市博物館で本邦初公開させていただきました。それをきっかけに、伊達家の甲冑を南相馬で補修し、その甲冑を南相馬で展示させていただいたり、現巨理伊達家当主の伊達元成さんに野馬追を観覧いただいたり(実は歴史的に見て画期的な出来事)、少しずつ交流が始まっています。そこには相馬と伊達がかつて火花を散らした因縁など皆無。これから相馬と伊達の未来がどうなるかわくわくしています。



一般社団法人北海道ブックシェアリングは「読書機会の格差をなくし、読みたいときに読める社会にしよう」との理念のもと、2008年に図書と教育の関係者によって設立しました。読み終えた本の再活用や読書環境の調査・アドバイス、そして図書イベントの指導やお手伝いなど、さまざまな活動を進めています。活動開始から3年後の2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。宮城県教委の要請などもあり、本会は石巻市に分室を設置し、図書館や読書室の復旧や整備を手がけました。北海道から、のべ150人のボランティアを受け入れ、被害にあった地域を走り回りました。

特に被害が甚大だったのは岩手県陸前高田市の図書館です。津波の直撃を受けて館は壊滅。職員は全員亡くなりました。本会は「本が読めなくなりました。気軽に集える場所を贈ろう」と約1千万円を集め、仮設図書館を建設して市に寄贈しました。陸前高田は震災前、はまゆり号という移動図書館車を持っていましたが、図書館とともに津波に呑まれ、大破。そこで、滋賀県の東近江市は、使わなくなった図書館車「やまびこ号」を寄贈しました。

本会の支援活動が終盤を迎えた2015年春、陸前高田では新車の導入を機に、やまびこ号の除却処分を決定。そこで本会は「ぜひ北海道で使わせてください」と同市に掛け合い、譲っていただくことになりました。やまびこ号は、近畿（東近江市）から東北（陸前高田市）へ、そして北海道（江別市）と、3つの地域で活躍する、じつに珍しい図書館車になったのです。とにかく広大な北海道ですから、やまびこ号は「3カ所目がいちばん過酷や!」と思っているかもしれません。図書館の支援では、さまざまなことに気づかされました。本の1冊1

本と読書でつながる輪！ ●文＝荒井宏明さん

人と暮らしに寄り添う図書館

冊にICタグという管理用のチップを貼り付けることで、無断持ち出しを防止したり、利用者自身で貸し出し手続きができるシステムがあります。その説明の際、女性の方々が「いいわねー、それ。ほんといいわ」という声が複数あがりました。



石巻市に設置した北海道ブックシェアリング分室の図書室

わけを訊いてみると、小さなまちでは、貸し出しカウンターに顔見知りがいることも多く「遺産相続」や「お金の借り方」、「病气」や「家庭問題」などの本を借りづらいというのです。「恥ずかしくて小説だって借りれないのよ」という方もいました。以来、行政の方々には「小さなまち

ほどICタグのメリットが活かされず」とお伝えしています。

また、震災関連だけでなく、さまざまな困りごとや悩みに関する本を一カ所に集め「困った人が読むコーナー」の看板をつけた図書館がありました。わかりやすくていいのですが、利用者からは「あの棚には気軽に立ち寄れないわ。いかにも困っている風にみられちゃうもの」という声があがりましたので、図書館の方に「課題解決に役立つコーナー」とかに名称を変えては？」と提案しました。

支援活動を通じて、わたしたちは本の読み手、そして借り手の気持ちに寄り添った図書館づくりの大切さを学ぶことができました。



一般社団法人
北海道ブックシェアリング 代表理事
荒井宏明さん

連絡先
【一般社団法人北海道ブックシェアリング】
〒069-0852 江別市大麻東町 13-52
電話 011-378-4195



◆2019年6月9日、東北4県28市町村をつなぐ「みちのく潮風トレイル」という1000キロのロングトレイル（長距離自然歩道）が全線開通しました。このトレイルは震災翌年の2012年、環境省が復興事業として発表したグリーン復興ビジョンに描かれた「青森県八戸市蕪島かふしまから福島県相馬市松川浦まで、東北を南北にたなび交流を深める道」です。



全線開通に先立ち、全線の総括本部として4月26日にオープンしたのが、名取市閑上ゆづりにある「名取トレイルセンター」です。センターは、訪れた方々への情報提供、地域の交流拠点という役割を担い、NPO法人みちのくトレイルクラブ（2017年設立）が運営しています。

「こころ」（閑上）は、震災まではたくさんの方々が生活を営んでいた場所です。今は災害危険区域と

され、戻ることはできないけれど、住人だった方々にもセンターを利用していただき、訪れた人たちとも交流できる場所にしていきたいです」

同法人の理事 相澤久美さんは、震災後、映画のプロデューサーという仕事のかたわら、東北沿岸部への中間支援活動を続けてきました。環境省からこの事業の依頼を受けたのが2017年。そこから相澤さんが取り組んだのは、広域で連携していくための関係者、地域住民へのヒアリングやワークショップ、そして、「何のために復興事業として1000キロの道をつくるのか」という目的を確認しあい、共有することでした。



仙台市若林区荒浜では、防潮堤の上を歩くルートもある。

そういう場の積み重ねにより「みちのく潮風トレイル憲章」ができました。



みちのく潮風トレイル憲章

ページをめくりながら電車の乗り継ぎを調べたものです。今はスマホで調べれば簡単にできます。そう考えると今の社会は、自分で考えることをどんどん手放してきているんですよ（相澤さん）

みちのく潮風トレイルを歩くにも、交通機関の利用は欠かせません。けれども、ルート上のあらゆるポイントの利便性がよいわけでも、完璧に整備されているわけでもありません。

トレイルとは、森林や里山などにある歩くための自然歩道です。戦後、高度経済成長を背景に開発と自然破壊が進み、新幹線や飛行機など高速での移動がもてはやされる中、人が歩く速度でものごとをみて、考える機会を失い、人間らしいスピードから離れてしまうことに警鐘を鳴らす人たちがいました。それが、1960年代後半です。それから半世紀以上経つたいま、大きな災害を経験し、学び、未来に向けて歩みだした東北沿岸部にロングトレイルができたことには大きな意味があります。

「たとえば旅をするとき、かつてはぶあつい時刻表をひらき、



歩くことで、感じて、考えて、語り継ぐきっかけになって欲しいと相澤さん

歩く道をつくる人

—みちのく潮風トレイル・北根室ランチウェイ—



こころでの歩きやすさができてきたらしいかな、と思っています（相澤さん）」

そして、相澤さんに「北海道には素晴らしいトレイルを作った方がいるので、是非会ってきたい！」とご紹介いただいたのが、「北根室ランチウェイ」を運営する佐伯雅視さんです。トレイルに関する様々を学ぶために東北沿岸地域の方々と行なったワークショップの講師を佐伯さんに依頼するなど、相澤さんにとって心強いアドバイザーであり友人です。

◆北根室ランチウェイは、中標津町交通センターとJR美留和駅を結び、広大な牧場地帯を通る全長71.4km・全6ステージのロングトレイルです。

空港のある中標津町と鉄道のあ

「人間の原点は、歩くこと。歩くことは、思考を活性化させます。人間の根源的なものを取り戻すことができるのが、この歩く旅です」と佐伯さん。確かに自らの足で、牧場を抜け、山に足を踏み入れ、湖を眺め渡すという行為は、冒険心をくすぐります。まる

この壮大な構想が立てられたのは、2005年。海外から表面的なところだけを切りぬぎ、本質からはずれてしまった流行やテーマパークなどに疑問を感じてきた佐伯さんは、「歩く道＝トレイル」の本質を知るためにスコットランドへ視察に行き、その後、数名のメンバーと一緒に、トレイルルールづくりをはじめました。

みちのく潮風トレイル

<http://tohoku.env.go.jp/mct/>

名取トレイルセンター

<https://www.mct-natori-tc.jp>

NPO法人みちのくトレイルクラブ

<https://www.facebook.com/michinoku.tc/>

北根室ランチウェイ

<http://kiraway.net>



緑の小山、モアン山を望みながら歩く道

広い牧草を横切る、一本の道を歩く。



で本能的なものを呼び起こすようです。一方で、利便性を求め高速化した社会にくらす私たちにとって、自分本来のスピードで旅をすることは、偽りのない時間に身を



佐伯さん

みちのく潮風トレイルはこれらに向けてつながって間もない道、北根室ランチウェイは次代を担う世代のメンバーも加わり、次に受け継がれてようとしている道です。たくさんの方の思いでつながる2つの道、ぜひみなさまも歩いてみませんか？



寄稿 / ページのたより

本を読むって

皆さんは本を読むのが好きですか？ 私は小さい頃、いつも家で読んでいたのは「ももちゃんシリーズ」の絵本でした。家には「こども力ラー百科」という事典が全巻揃っていたにも関わらず、見るのは動物園と遊園地のところばかりで、そこだけ手垢で汚れ、破れ、他はきれいなままでしたので、非常に偏り、好きな部分しか開いていなかったようです。

社会人になって、ある職場で年上の先輩数名と仲良くなり、一緒にお昼ご飯を食べるようになりました。ある時、一人がおすすめの本を持ってきて下さり、皆で回し読みをしたあと、感想を言い合う、ということがいっしょに始まったのですが、皆で本について話すのはこんなに楽しい事なのだ、と気付かせてもらいました。感動や、そこに横たわる社会問題についての意見の共有、そして共感。お昼の休憩時間がとても待ち遠しかった事を覚えています。その先輩達の選ぶ本は的確で、お

もしろい本ばかり選んで持ってきて下さるので、ある本を読んだ後は同じ作家の別の本、と読書の幅が少しずつ広がっていききました。

子どもが産まれてからは、読むのは絵本の読み聞かせばかりの年月が続いていました。そんな中で一度、自分が気になっていた本を手にした時、家事育児もおろそかになってしまつくり本に集中してしまつた事がありました。そこで、やはり読書は子育てがもう少し落ち着いてから楽しもう、と思っていたところ、震災がおこりました。

それ以降は震災関連の本ばかりに目がいってしまい、まだ幼稚園前で

小さかった次女に絵本の読み聞かせをする気も起きなくなっていました。

それでも月日が経ち、本を読む力が少しずつ戻ってきた頃、小学生になった次女に、寝る前に本を読んでもくれと言われて、読んでやれるようになりました。子どもから読んでほしいと言われるのも今だけだろうと思い、今はなるべくその要求に出来るように心がけています。

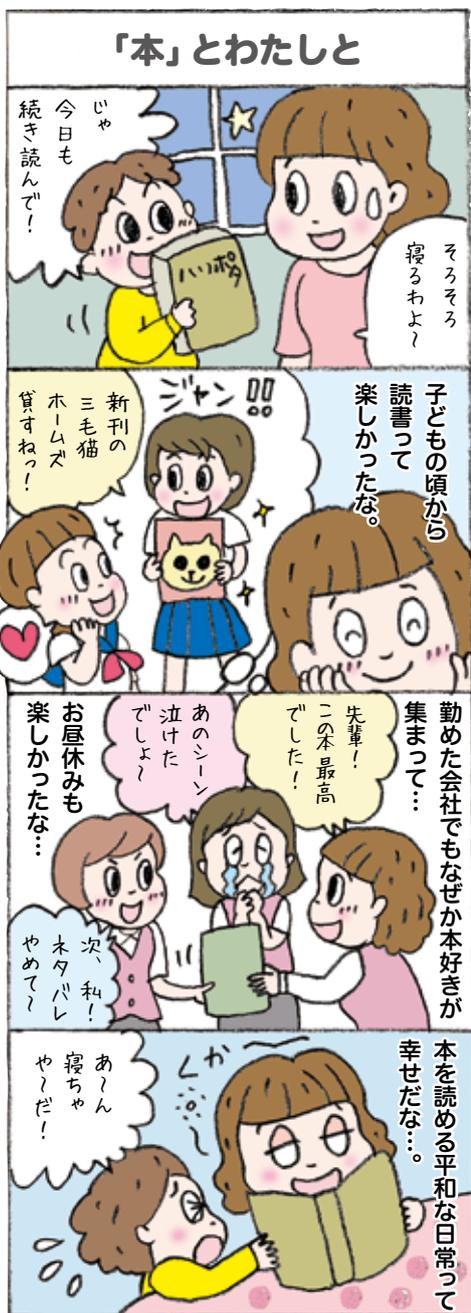
そしてこちらに来てお友達になつた方が、ここ最近、何冊かおすすめの本を貸してくれ、私はあの頃の楽しかったひとときが思い出され、嬉しく読んでいます。

本を楽しく読めると言うことは、

幸せなことだと思います。そして、意見を交換させる場と相手がいる、ということも、同じく幸せな事と感じます。8年経った今、皆さんがあの当時から少しでも心が穏やかで、読書でも趣味でも、ご自分の好きなことが出来る気力が戻っているといいなと思っています。

最後に。小さい時から本を沢山読む人は頭がいい、と思っていました。ある大学の研究員の方が「子どもの時はほとんど読書しなかった」と言っていました。子どもの時に読まなくても、大人になって、必要に迫られてから本を読んでも、遅くないですよ（個人の感想です）。

（ペンネーム 大きいももちゃん）



これからも、ゆる〜く読書をできたらいいです♪

東日本大震災後、北海道へ避難してから長い方で8年半がたっています。8年半という年月は、あっという間のようにやはり長いもので、誰もがそれだけの歳を重ねてきたこととなります。子どもたちが成長する一方、避難元や生まれ故郷にくらす親御さんが高齢になることで介護が必要になり、中には北海道に呼び寄せる方もいれば、親御さんの元に戻られる方もいます。

そういった理由から避難元に帰るのに、「何か支援や補助はありますか」というご相談をいただいたことがあります。避難者支援、となるとなかなか難しい今ですが、場合によっては活用できる制度や民間サービスがあるのでご紹介します。特に、道内に住民票を移している方は移住支援を活用できることがあります。

※皆さんの中に、親御さんと呼び寄せたり、介護などで行き来した経験から、他の方とも共有できる良い情報（福祉制度や民間サービスなど）をご存知でしたらぜひ教えてください。

北海道から帰還する場合

・福島県：ふくしま移住希望者支援交通費補助金
福島県に移住（Uターン、Iターン、二地域居住）を

考えている方が、実際に福島県内を訪れ、移住に当たって必要な現地調査・現地活動を行った場合に、その交通費が補助（定額）されます。北海道からの場合、補助上限額は24,000円です。

問合せ：福島県東京事務所（移住推進員あて）

HP：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/267561.pdf>

メール：iju_tokyo@pref.fukushima.lg.jp

電話：03-5212-9050



北海道から介護のために飛行機を利用して行き来する場合ANAとJALでは、割引制度を設けています。

- ・介護割引を利用するときは、事前の登録が必要です。
- ・利用できるのは満12歳以上で要介護または要支援認定された方の「二親等以内の親族の方」と「配偶者の兄弟姉妹の配偶者」ならびに「子の配偶者の父母」に限られます。
- ・LCCや早割の方が運賃は抑えられますが、急な帰郷などでANAやJAL以外の選択肢がない場合は事前登録をしておくことで割引が受けられます。
- ・詳しくは、各航空会社にお問い合わせください。

避難元からの情報

●現在の入試制度からの主な変更点

宮城県

- ①これまでの前期選抜と後期選抜を一本化し、第一次募集として実施します。
- ②第一次募集では、共通選抜と特色選抜の2通りの選抜方法で可否を判定します。
- ③インフルエンザ等のやむを得ない事由により、本試験を受験できなかった受験生を対象に、追試験を実施します。

福島県

- ①I期、II期選抜を統合した新たな選抜（前期選抜）を設け、さらにIII期選抜と同様の選抜を後期選抜として実施します。
- ②前期選抜と連携型選抜の志願者全員に学力検査を課します。

令和2年度から、宮城県と福島県の県立高等学校の入試制度が変わります。お子さまの高校入試を機に帰られる予定の方は、ご確認ください。

- ③前期選抜においては、各高等学校が「志願してほしい生徒像」を具体的に示し、各高等学校の特色に応じて実施する特色選抜と、中学校における学習活動の成果を総合的にみる一般選抜を行います。

※中学校：中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を指す

●詳しくは、各県教育庁までお問い合わせください。

【宮城県教育庁高校教育課 教育指導班】

電話：022-211-3624

E-mail：ko-kyou@pref.miyagi.lg.jp



【福島県教育庁高校教育課】

電話：024-521-7772



北海道における被災避難者の受入状況

[2019年10月10日現在]

※北海道のホームページでもご覧になることができます。



単位：人

	岩手県	宮城県	福島県	その他	合計	
石狩	札幌市	19	170	479	105	773
	江別市	4	14	36	0	54
	千歳市	3	16	17	0	36
	恵庭市	0	0	33	0	33
	北広島市	0	2	13	4	19
	他2市町村	0	1	7	0	8
空知	岩見沢市	1	8	14	0	23
	他10市町村	0	7	20	0	27
後志	小樽市	0	4	19	9	32
	他5市町村	0	3	7	0	10
胆振	苫小牧市	4	19	10	0	33
	他6市町村	0	10	17	0	27
日高	2市町村	0	0	7	7	14
渡島	函館市	6	31	84	17	138
	北斗市	2	4	15	0	21
	他2市町村	0	0	8	0	8
檜山	3市町村	1	6	2	0	9
上川	旭川市	5	26	50	9	90
	他10市町村	3	8	17	9	37
宗谷	1市町村	0	0	0	1	1
	北見市	0	2	13	0	15
オホーツク	他6市町村	0	4	12	0	16
	十勝	4	3	18	6	31
十勝	他1市町村	0	3	0	0	3
	釧路	釧路市	2	17	12	8
他1市町村		0	0	1	0	1
根室	1市町村	0	2	0	0	2
総計	64市町村	54	360	911	175	1,500

避難者相談窓口

NPO 法人 北海道NPOサポートセンター

電話：011-200-0973

平日 10:00 ~ 17:00

FAX：011-200-0974

メール：info@hnposc.net

〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74
市民活動プラザ星園 201



地下鉄東豊線 豊水すすきのの駅6番出口
地下鉄南北線 中島公園駅1番出口

全国避難者情報システム「ふるさとネット」の登録について

「からから便り」は「ふるさとネット」の登録情報をもとに発送しています。「ふるさとネット」は北海道が運用する被災避難者サポート登録制度です。この制度は自治体の転入届とは連動しておらず、転居の場合は住所変更のご連絡をいただかなければ、郵送物が「所在不明」として返送されてしまいます。転居、登録解除など、「ふるさとネット」の登録内容に変更がある場合はご連絡ください。

■連絡先

- ① NPO 法人 北海道 NPO サポートセンター
- ② 北海道総合政策部地域振興局地域政策課地域政策グループ
電話：011-204-5800
メール：shienhonbu@pref.hokkaido.lg.jp
- ③ 避難先市町村の担当窓口（市町村により部署が異なります）

編集後記

当初から遅れての発行になりましたが、「からから便り」第1号を無事に発行することができました。これまで親しまれてきた「からから」を引き継ぎながら、新しいコンセプトのもとに発行することを示すために「からから便り」という名前にしました。避難を経験した方々にも編集チームに加わってもらい、読んでいる方々の思いや不安、悩みが共感・共有できる紙面づくりを心掛けました。人と人が繋がる紙面づくりに向けて試行錯誤をしているところです。読んでいる皆さんと共につくりあげていく情報紙にしていきたいと思っておりますので、紙面に関する率直なご意見をお待ちしています。（定森）

からから便り Vol. 2 ■ 2019年10月20日発行
発行：NPO 法人 北海道 NPO サポートセンター
〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201
電話：011-200-0973 FAX：011-200-0974 メール：info@hnposc.net
委託元：北海道

※東日本大震災により北海道へ避難されている方で、情報紙の送付を希望される方は北海道 NPO サポートセンターまでご一報下さい。表紙写真：みちのく潮風トレイル⇒P.4~5

お預かりした個人情報、避難者の生活支援のために利用するほか、出身県への提供など限定した目的のみ利用し、その他目的は一切利用いたしません。

【無断転載・コピー】

本紙掲載の写真・図版・記事などを許可なく無断で転載することを禁じます。